



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 鬼北町国体推進室 内線4203・4204

No.5

鬼北町で実施する「民泊」では、少年女子バレーボールチームの選手(高校生)、監督、コーチ等が一般家庭に宿泊します。

宿泊する人数は、チームによって異なりますが、1チームあたり約17人(選手12人、監督1人、コーチ1人、補助選手3人)を想定しています。国体の少年女子バレーボール競技には、地区予選を勝ち抜いた24チームが出場しますので、町全体では約400人が民泊することになります。

● 宿泊する日数は、大会前の公式練習、そして、
● トーナメント方式で行われる試合の勝敗の関係で
● 一定ではありません。最短の場合は1泊2日(大
● 会前日に来町→大会1日目で敗退し帰宅)、最長
● の場合は7泊8日(大会3日前に来町→決勝戦の
● 翌日に帰宅)です。



【少年女子バレーボール競技日程】

9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
総合開会式				公式練習		試合1日目	試合2日目	試合3日目	試合4日目	総合閉会式
			最短(1泊2日)		←→					
最長(7泊8日)		←→								

民泊の思い出

今回は、山口国体のホッケー競技に出場し、民泊を経験した女子高校生の感想をご紹介します。

私は、今回民泊を経験して、とても良かったと思っています。旅館やホテルなどもサービスがしっかりしていますが、民泊には、独自の温かさというものがありません。試合前で落ち着かない私たちに、楽しく話をしてくださいましたし、家を出発する時には「行ってらっしゃい」という声や、帰ってくると「おかえりなさい」と出迎えてくれる家族のような存在が、とても嬉しく私たちに落ち着かせてくれました。

試合にも応援に来てくださって、いつも以上にやる気が湧いてきました。勝つともう一度民泊の家に帰りたという気持ちが、みんなの気持ちを1つにしていた部分もありました。試合後に「よく頑張ったね」などと声をかけられると、緊張が解けました。数日しか一緒に過ごすことはできませんでしたが、私の中ではもう一人の両親のような気持ちです。いつもの自分でいられる民泊をこれからも続けてほしいと思います。



えがお 愛顔つなぐえひめ国体鬼北町実行委員会からのお知らせ

新たに6つの民泊協力会が誕生！(平成27年8月12日現在)

先月の広報で紹介した「O-YADO(おおやど)民泊協力会」(大宿/愛治地区)、「鬼北の里民泊協力会」(鬼北の里/近永地区)に続いて、「岩谷民泊協力会」(岩谷/泉地区)、「新町民泊協力会」(新町/近永地区)、「中野川民泊協力会」(中野川/近永地区)、「小西野々民泊協力会」(小西野々/泉地区)、「奈良中組民泊協力会」(奈良中/近永地区)、「小倉民泊協力会」(小倉/泉地区)が設立されました。各地区の皆さん、ご協力よろしくお願いたします。